

独・仏現代哲学研究会（代表：文学研究科M2 若杉直人）

研究の目的

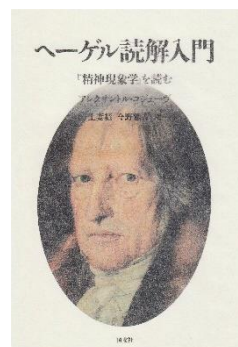
本研究会の目的は、フランス現代哲学におけるドイツ哲学の受容について研究を行うことにある。現在、フランス現代哲学を研究するにあたってドイツ哲学、とりわけヘーゲル哲学の影響を無視することは決してできない。具体的には、アレクサンドル・コジェーヴによる『ヘーゲル読解入門』を中心として、ヘーゲル哲学のフランスへの導入がその後のフランス現代哲学においていかなる影響を与えたのかを明らかにしてゆく。

活動の形態

本研究会は、Zoomを使用したオンライン形式で行っている。本年度は主に、『ヘーゲル読解入門』をメインテキストとして、各回、担当者がレジюмеを用意し、それに基づいて発表するという形態で読書会を行った。また、ドイツ哲学とフランス哲学の影響関係といった観点から、参加者らの個人研究発表も行い、ドイツ哲学がフランス現代哲学に与えた影響関係について、本研究会なりの応答を試みる。

活動内容

- ・読書会
アレクサンドル・コジェーヴ『ヘーゲル読解入門』
＞第1章～第7章まで
- ・個人研究発表
デリダとハイデガーにおける「指標性」の問題（若杉）
美学におけるヘーゲル思想の受容とその展開（高畑）
戦間期ジョルジュ・バタイユにおける思想（林）



★参加者・研究内容★

若杉直人（代表）／文学研究科・哲学専修／バタイユ思想
高畑和輝（副代表）／先端研／表象文化論・美学
蛸子良風／文学研究科・哲学専修／レヴィナス
林淳／京都大・文学研究科・宗教学専修／バタイユ思想
松尾遼太郎／法学部／思弁的実在論